

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

将来に亘って持続可能ながん情報提供と相談支援の体制の確立に関する研究

研究分担者 藤原 俊義 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 消化器外科学・教授

研究要旨

日本癌治療学会は、診療科横断的ながん医療専門の統合的学会であり、2004 年以降「がん診療ガイドライン」として各臓器・領域のがん診療ガイドラインの評価とウェブ公開を推進してきた。現在、jsco-cpg.jp にて 27 領域の臓器がん別ガイドラインと 9 つの支持療法に関するガイドラインを公開している。アクセス件数は、2018 年 6 月は月 40 万件以上であり、2007 年の公開開始以降毎年増加してきている。また、第 56 回日本癌治療学会学術集会において、がん診療ガイドライン統括・連絡委員会の企画シンポジウムとして「がん診療ガイドラインの進化と利用者からの視点」を開催した。さらに、高山班の「将来に亘って持続可能ながん情報提供体制に関する意見交換会」にて現状を報告する発表を行った。

A. 研究目的

本研究において、癌治療学会は横断的な学会として各専門領域の最新の学術的知見を幅広く共有し、科学的根拠に基づいた正確な情報を医療関係者および国民に広く発信することで、質の高いがん医療の水準を保つことを目的とする。

B. 研究方法

癌治療学会がん診療ガイドライン委員会では、幹事委員会、協力委員及び評価委員からなる 29 の分科会、G-CSF および制吐薬適正使用ガイドライン改訂ワーキンググループ、小児思春期・若年がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン作成ワーキンググループ、がん診療ガイドライン評価委員会が連携し、エビデンスに基づいた正確な情報を迅速にホームページ上に提供できるように活動を行ってきた。

C. 研究結果

日本癌治療学会「がん診療ガイドライン統括・連絡委員会」では、がんの診療ガイドラインの作成・公開・評価のあり方について検討し、「がん診療ガイドライン作成・改訂委員会」、29 領域の分科会、本学会が主体となる「制吐薬適正使用ガイドライン改訂ワーキンググループ」、「G-CSF 適正使用ガイドライン改訂ワーキンググループ」、「小児思春期、若年がん患者の妊孕性温存に関するガイドライン作成ワーキンググループ」と協力し、jsco-cpg.jp にて 27 領域の臓器がん別ガイドラインと 9 つの支持療法に関するガイドラインを公開している。アクセス件数は 2007 年の公開開始以降毎年増加してきており、2018 年 6 月には月 401,233 件と 4 万件以上に達している。

平成 27 年の第 53 回日本癌治療学会学術集会から、がん診療ガイドラインのアウト

カム評価のための企画シンポジウムを実施しており、今年度も第56回日本癌治療学会学術集会で「がん診療ガイドラインの進化と利用者からの視点」のテーマで開催した。本シンポジウムで、研究代表者の高山智子先生に「がん診療ガイドラインの利用者からの期待～Communication toolとしての活用をめざして」の講演をいただき、持続可能ながん情報提供の重要性を啓蒙いただいた。さらに、高山班の「将来に亘って持続可能ながん情報提供体制に関する意見交換会」にて現状を報告する発表を行った。「がん診療ガイドライン (jsco-cpg.jp)」の閲覧者は90%近くが医療従事者であり、医師と薬剤師が約70%を占めていた。患者・市民向けの「がん治療の案内板」ページへのアクセスは限られており、「がん診療ガイドライン (jsco-cpg.jp)」サイトへのリンクはあまり活用されていないことが明らかとなった。

D. 考察

がん対策基本法に基づくがん医療の標準化の流れの中、診療ガイドラインの普及はわが国におけるがん医療の質の向上と均霑化に大きな役割を果たしてきた。多くの領域において、臓器別・療法別のがん診療ガイドラインが策定され公表されてきたが、時代とともにその形式、作成・評価方法、発信媒体なども変化してきている。

今後、臓器がん別および療法別ガイドラインの進捗状況とそのアウトカム評価に有用ながん登録などのデータベースの活用状況などを把握し、さらに最新のガイドラインの内容をわかりやすく国民に提供してい

く必要がある。

E. 結論

がん診療ガイドラインの内容をわかりやすく国民に伝えていくことが重要である。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

該当なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当なし